

平成 25 年 9 月 5 日

さくら通信(9月号)

長崎県立佐世保中央高等学校定時制夜間部

長い夏休みも終わり、学校生活が再開しました。生活リズムを夜間部のリズムに戻し、新たな気持ちで登校してください。また、夏休み中には、身だしなみに乱れはありませんでしたか？高校生らしい服装や頭髪となっているか、今一度自分自身でチェックをしてみましょう。

いよいよ3年生は進路実現の大切な時期になります。そして、いろいろな学校行事がある時期でもあります。準備をして臨んでください。

平成 25 年度 全国定時制通信制体育大会へ出場した

本校夜間部選手の活躍の跡

○サッカー部 1 回戦 0 - 1 道守（福井）

○卓球部 男子個人 3 A 中村恵輔 3 回戦進出
2 C 山下将志 3 回戦進出
2 C 吉田翔一 1 回戦敗退

○柔道部 男子個人 軽量級 2 A 井上要一 ベスト 8
長崎県団体（井上、肱岡拓也）は 1 回戦敗退

○陸上 1 0 0 m 1 A 平國雅智 3 位
2 0 0 m " 4 位（自己新記録更新）



9 月の主な行事

6 日（金） 体育大会
13 日（金） 前期併修レポート最終締め切り
16 日（月）～ 就職試験開始
17 日（火）～20 日（金） 第 2 回考査
24 日（火）～25 日（水） 前期併修考査
29 日（日） 県生活体験発表大会
30 日（月） 代休



前期校内球技大会

7月12日（金）に球技大会が行われました。種目は、男子がソフトボール、女子はバレーボールとバドミントンが実施されました。結果は次のとおりです。

《優勝、準優勝チーム》

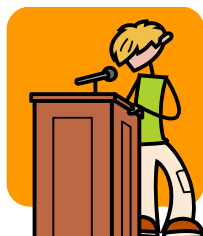
男子ソフトボール	優勝	1 B	準優勝	1 A
女子バレーボール	優勝	3 A a	準優勝	1 C
女子バドミントン	優勝	2 A a	準優勝	3 A



校内生活体験発表大会

7月17日（水）に校内生活体験発表大会が開催されました。結果は次のとおりです。

<最優秀賞>	3 A	中島 千彰	「高校生活5年目」
	3 C	坂本 葵	「あなたの高校生活はどうでしたか」
	3 A	濱田 瑠唯	「次へのステップ」
	2 A	釘本 初音	「大人になりたい」
<優秀賞>	2 C	仲嶺 一砂代	「アルバイトを通して」
	3 C	岩崎 凌	「脱却」
	2 A	牧野 彩華	「15歳の四季」
	1 C	小宗 彩花	「入学してから思ったこと」
	3 A	江口 千奈	「これまでの振り返って」
	1 A	森山 彩花	「将来の目標」
	1 B	石場 未来	「入学後の私」
	2 C	山下 将志	「今、私が思うこと」



※最優秀賞の中島さん（3A）と坂本さん（3C）は、9月29日（日）に佐世保市体育文化館コミュニティーセンターで行われる「長崎県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」に本校夜間部代表として出場します。

生徒指導部より

安全運転実技講習会及び交通講話の実施についてお知らせ

来る10月1日（火）に原付運転の実技指導が本校で行われます。その内容は、急制動・直列パイロン・千鳥・ナロー・遅乗りなどで、自動車学校の指導員から直接指導を受けることができます。原付の免許を所有している皆さんは、ふるって参加しましょう。

それ以外の生徒の皆さんには、佐世保警察署から、交通に関する重要な講話が予定されています。今一度、交通の安全について考え直すチャンスです。危険性やマナーの大切さを再確認してください。

今年も長崎市に原子爆弾が投下された 8 月 9 日に平和学習を行い、「多くの犠牲者が出たこと」やこの痛ましい歴史を繰り返さないために「次の世代に語り継ぐこと」を学びました。そして、「平和の大切さ」や「戦争の悲惨さ」を再確認した 1 日だったものと思います。

『ナガサキの少年少女たち』(DVD)をみての生徒の感想文の一部です。

毎年平和学習をして思うのは、私達はとても平和な環境に生まれてこれたということです。もし、68 年前、生まれていたら考えたらすごく『死』を重く感じます。今は平和だから簡単に「死にたい。死のう。死ね。殺す。」と言っているけど、実際は重い言葉だと思います。今の自分は恵まれている。

今の人たちは、死の重さを知らずに、人を簡単に殺したり、いじめで死に追いやったりと平和ではあるけれど、ちょっとしたことが平和という言葉壊していると思います。

平和とは「戦争なし」・「いじめなし」、そして「犯罪なし」。これが立派な平和です。私達ができることは、いじめをしない。人を殺さない。そして何より二度と戦争をしないようにする。一人一人が心がければ、少しは改善するし、少なくとも、いじめをなくすことは、私達の力でできると思います。今できることを精一杯して、平和な環境で暮らしたいです。私は毎年心がけているので、これからも続けようと思います。

68 年前の今日、原子爆弾が長崎に投下された。7 万 3 千人の死者が出た。その地には草木が生えない。「ヒバク」した子供たちは原爆の証人として生きようとした。そして人々は心身に傷を負いながらも生きる道を探していた。今、現在生きている私達は原爆を経験していない。だが、毎年長崎県内でおこなわれている平和学習で原爆の恐ろしさ、苦痛を学んできた。68 年前の原爆の恐ろしさを経験した人たちは今の私達に語ることはできない。だが、私達はこれからの長崎の子供たちに語るができる。それは今を生きている私達にしかできないことだ。自分の死んだ家族を焼かないで平和な世界を作らなければならない。そんな世界を作るために私達は平和と原爆を語らなければならない。



今まで、平和集会で今日見た DVD などを何度も見てきました。そのたびに面倒くさいと思っていましたし、平和集会ですら嫌でした。しかし、高校に入ってから特に平和集会は大切なことだと思うようになりました。

今日の DVD はいつもより目をおいなくなるような映像が多く、すごく考えさせられました。人間がどうしてもたくさんの人を殺すのか、私にはわかりません。現代ですら人を殺したり、テロなどあったりでよい時代とはいえないけれど 68 年前とは比べものにならないくらいとても平和です。私はこの時代に生まれてきたことをもっと幸せに思わなければならないと改めて思いました。

まず DVD を見て、絶対に忘れてはならないと思いました。私達の後の世代にも伝えて二度と起きないようになくてはと思いました。戦争というのはいかなる場合も、人を傷つけるだけなのでしてはいけないと思いました。DVD の中で人の手が瓶についていたり、目が出たりつぶれていたりと、何人もの人が言っていた「私達は何もしていないのに…」。本当にその通りだと思いました。何もしていないのに被害に遭うのは一般市民です。幼くして亡くなった子供も、これからがあったであろう人、いろいろな人の人生を奪ってまで戦争はしなくてはいけなかったのでしょうか。私には不満と疑問でしかありません。これから私達の子供や孫たちの世代が平和で戦争のない世界でいられるように私達ができることをする。私は子供たちにも伝えていきたいと思いました。

戦争は怖いなと思いました。二度と戦争はしちゃだめと改めて思いました。熱い思いも苦しい思いもみんなしたくないです。毎日毎日平和で過ごしたいです。長崎の人たちは戦争の話を聞くことが他の県の人たちより多いと思うから、それをみんなに伝え、戦争は怖いと言うこと言わないとだめだと思います。言葉で表現することは難しいけれど、どうにかして戦争の怖さを伝えないとまた戦争をすることになるかもわかりません。そうなるからでは遅いので平和が一番とみんなに思っています。戦争を体験した人たちが少なくなっているので、若い人たちが、戦争の恐ろしさをもっと若い人や他の国の人、他の県の人たちに伝えることしないとだめです。自分も今まで聞いた戦争の話を忘れません。

原爆が落とされた日は、私が生まれるよりまだずっと前のことでした。過去に原爆が落とされたのだと理解できたのは、中学生になってからでした。小学生の頃は、なぜ夏休みに集まって平和集会なんてやるのだろうか疑問に思っていて、最近、考えてみると、今私達が平和に暮らしているのは原爆によって亡くなった方々に犠牲の上に成り立っているのだと言うことが理解できました。

原爆が落とされた日からずいぶん時が過ぎて実際に体験した方々が少なくなっていく中で、私達若い世代が戦争の恐ろしさや愚かさを知る機会も少なくなってしまうかもしれません。ですが、私達の平和は犠牲の上で成り立っていることを理解し、生きていきたいと思えます。